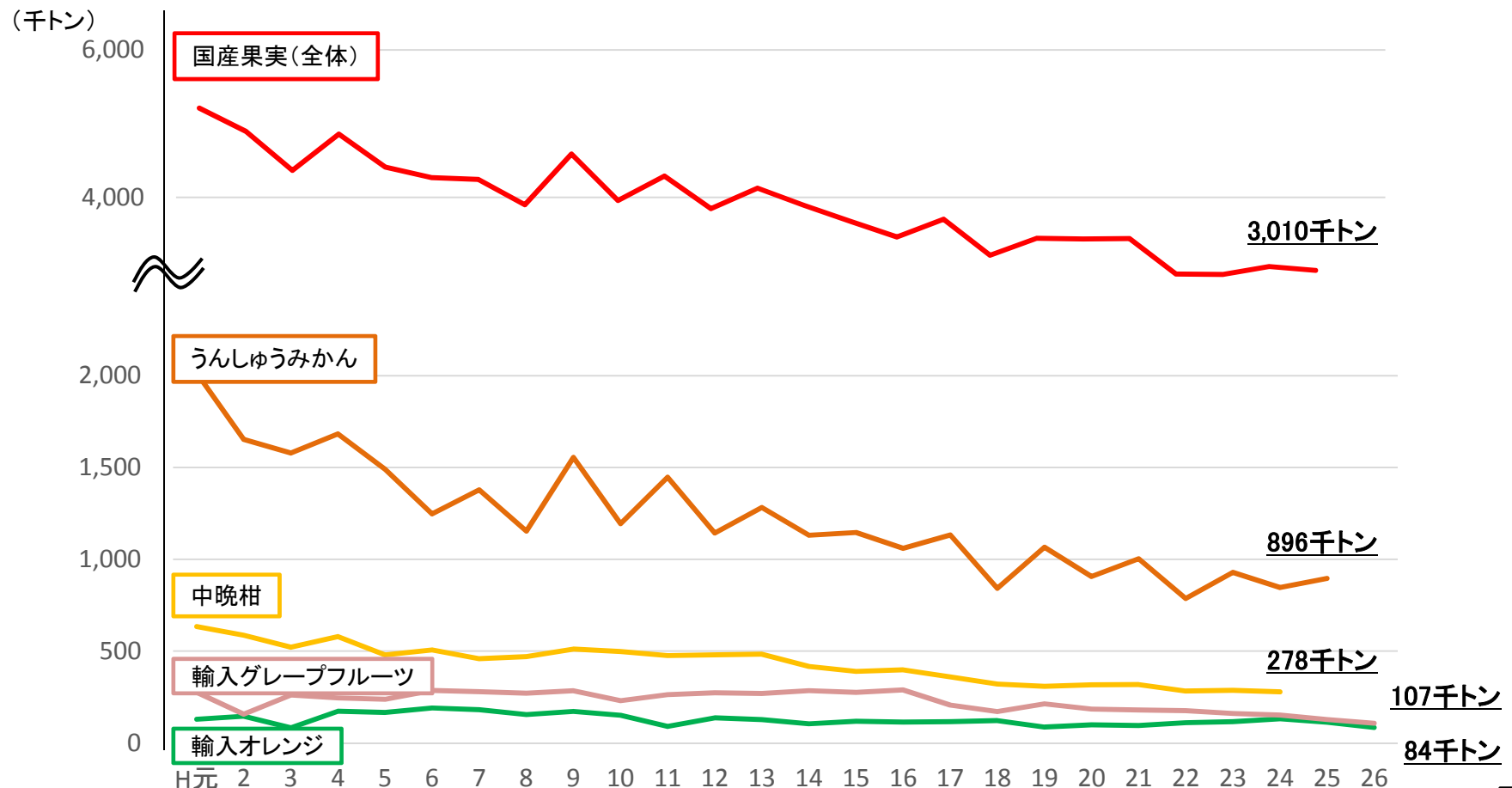


我が国の 中晩柑の概要

我が国の中晩柑の概要

- 我が国の国産果実の需要は、減少傾向で推移。
- 果実の中で、最も生産量の多い、うんしゅうみかんも減少傾向で推移し、近年は90万トン程度で推移。
- 中晩柑についても、減少傾向で推移していたが、近年、減少の程度は緩やかになっている。
- 輸入オレンジ、グレープフルーツについては、この間に、平成3年のオレンジの輸入自由化、平成7～12年にかけての関税引き下げがあったが、輸入量は横ばいから減少傾向で推移。

○ 国産果実、うんしゅうみかん、中晩柑、輸入かんきつ需要量の推移

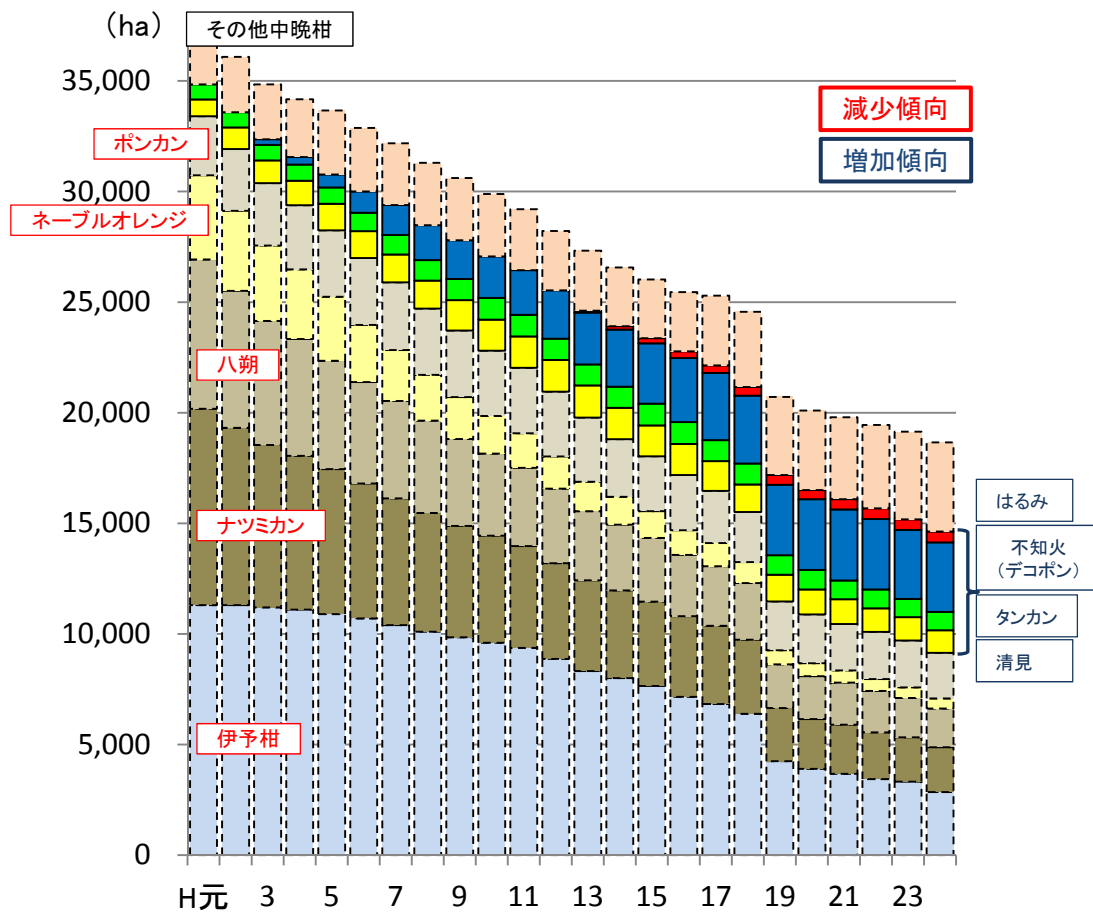


資料：国産果実、うんしゅうみかん及び中晩柑（農林水産省）、輸入かんきつ（財務省貿易統計）

我が国の中晩柑の概要

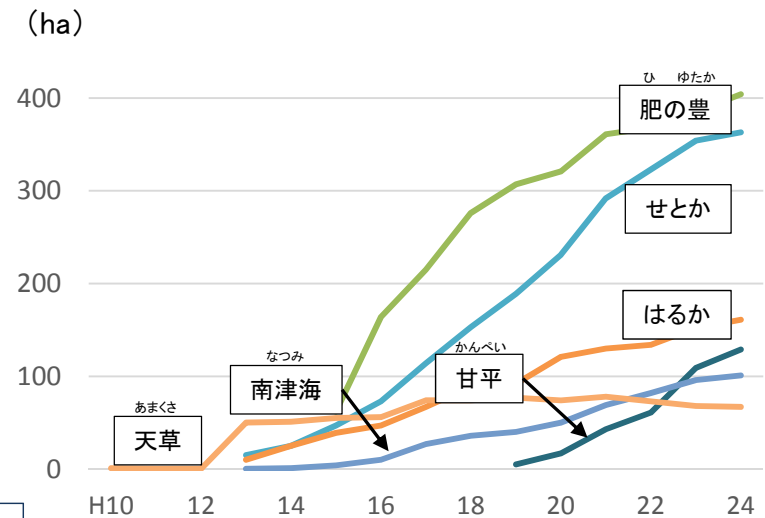
- 中晩柑全体の生産量は、減少傾向で推移しているものの、その内容を見ると、中晩柑の主力品種であった伊予柑や八朔等の生産が減少する一方で、「デコポン」や「はるみ」など高糖度で食味の良い品種は増加しており、消費者ニーズを捉えた品種の生産がなされている状況。
- また、「肥の豊」^{ひ ゆたか}、「せとか」^{せとか}、「はるか」^{はるか}など更なる新たな品種についても、普及が進んでいるところ。

○ 我が国の中晩柑の栽培面積の推移





資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」
注：「統計調査方法の変更」に伴い、H18年からH19年にかけて数値が減少。

○ 新しい中晩柑の栽培面積の推移



資料：「特産果樹生産動態等調査(農林水産省)」

 <p>肥の豊 糖度が高く、早熟性で、食味に優れた品種</p>	 <p>せとか 香り、色、味いに優れた品種</p>
---	---

中晩柑と輸入かんきつ(オレンジ、グレープフルーツ)の状況

- 我が国の中晩柑の販売価格は、輸入かんきつに比べて、高値で取引されており、輸入オレンジやグレープフルーツの価格が100円/kg前後であるのに対し、我が国の中晩柑は200円/kg～800円/kg程度で販売されている。
- また、我が国の中晩柑は、高品質であることに加え、手で皮がむきやすいなど、食べやすさの点からも消費者ニーズに合致しており、品質・価格面で、輸入かんきつとは差別化が図られている。

○ 中晩柑と輸入かんきつの価格の推移

(円/kg)

	22	23	24	25	26
デコポン	367	449	401	380	374
清見	234	301	270	238	260
伊予柑	143	242	215	194	174
ポンカン	178	289	242	237	204
せとか	-	631	548	509	480
紅まどんな	-	751	796	812	-
輸入オレンジ	101	93	97	112	142
輸入グレープフルーツ	98	88	93	102	112

資料:中晩柑 東京卸売市場価格市場統計情報、農林水産省調べ
オレンジ 財務省「貿易統計」のCIF価格

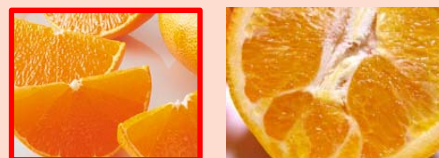
○中晩柑の優位点

①皮剥きが容易



左:デコポン、右:オレンジ

②繊維が少なく食べやすい



左:はるか、右:バレンシアオレンジ

○ 近年開発された中晩柑の品種

紅まどんな

○出回り時期: 11月～1月

○特徴: 酸味が低く甘味が強い。果実がとても甘くやわらかく、良食味。大きさは250g程度で、内袋ごと食べられる。



はれひめ

○出回り時期: 12月～1月

○特徴: 果汁が豊富で酸味が少なく、風味のよい甘味が特徴。大きさは200g前後で、内袋ごと食べられる。



まりひめ

○出回り時期: 1月～3月

○特徴: 糖度も高く、良食味。大きさは200～250gで、皮はむきやすく、内袋ごと食べられる。



ひめのつき

○出回り時期: 2月～3月

○特徴: 香りがよく、酸味は控えめで甘味が強い。大きさは150～200gで、皮がむきやすく、内袋ごと食べられる。

